

## 【旅するまちづくり合宿】の開催

2月22日(土)～24日(月)に2泊3日の【旅する“まちづくり合宿”】が行われました。この事業は、いんしゅう鹿野まちづくり協議会が主催するもので、これまでに“まちづくり合宿”に招待した人の地元を訪ねて活動の実態にふれて回るといふ企画です。参加者は、鹿野町の若者・鳥大生地元民たち、総勢20名の旅でした。3カ所を訪問したので、その活動の一端を紹介します。

## I. 長野県小布施町

## ○浄光寺 林 映寿副住職

・新しいスポーツ「スラックライン」を小布施町に根付かせる活動を行いました。2017年には、「第1回スラックライン・ワールドカップ」の開催など大活躍でした。



林 副住職

・台風19号での千曲川の氾濫は、小布施町に大打撃を与えました。そこで、「民間にこそできる支援を」と立ち上がり、リンゴ畑一面を覆った泥土の除去の実施や「重機オペレーター100人養成プロジェクト」を実行しておられます。今では、将来の免許取得に向けて、中学生も受講しているそうです。まさに、住民主体の活動です。



スラックライン

## ○プチホテル ア・ラ・小布施

・関 悦子さん(小布施町議会議長)の熱い思いを聞きながらの町内巡りでした。「ゲストハウス小布施」の立ち上げメンバーでもあります。このゲストハウスは、「プチホテル ア・ラ・小布施」に衣替えし、ステキな空間を提供しています。行政と民間の長所を生かし、ともに活動していく中で、小布施の経済・文化を築き上げようとこの会社を設立したそうです。この会社への出資者は、賃金・労力・アイデアなど、持てる資源は提供するが、直接の見返りは求めない。この熱意に感動しました。



関さん 市川さん を囲んで

## ○おぶせ交流館

・「若者会議」で議論し、都心のクリエイターが滞在できるよう、地元のクリエイターや企業が支援する必要性を訴え、2018年4月の設立に尽力したのが、当時の地域おこし協力隊の 塩澤耕平さんです。(葛飾北斎と地元の豪農商 高井鴻山 との関係。)



市村町長 塩澤さん を囲んで

・同時にクリエイターコミュニティ「ハウスホクサイ」をオープンさせました。これは、シェアオフィスで、小布施を訪れた起業家やクリエイターが作品や仕事を生み出す場として重要な場となっています。

## ○小布施オープンオアシス

・各世代間で自然に交流し、よりよい関係性を築く機会を作るために、リラックスしてオープンに本音を語ることができる場としたい。こんな思いで設立したのは、代表の 市川博之さんです。彼の本業は、造り酒屋(松葉屋本店)ですが、閉館した美術館を改装(仲間たちの手作り)して、「ボルダリング」が楽しめる県内随一の施設にしました。その活動の様子や思いをお話しされる姿には、参加者一同圧倒されました。



ボルダリング

## ○小布施町並み修景事業

・修景というのは、既存のものを変えて、住民が楽しく快適に住むことがで



きる環境を作っていくことで地域住民が楽しく日常生活が維持できてこそ、その結果として、観光客もその楽しさを体感したいと訪れて下さる。この事業の中心人物が、「小布施堂社長 市村次夫さん」です。

○小布施町長 市村良三さん

・1980年 小布施堂入社 1994年 ア・ラ小布施設立。まちづくり活動を経て町長へ。

## II. 長野県泰阜村

○泰阜村長 横前 明さん

・村づくりの理念・「都会に追従しない村づくり」 ・空き家の活用・空き家は多いが、かつよができる物件は僅か。 ・現在の政策・子ども・子育て支援が中心で、都会ではできない自然を活用した教育の実践。

○暮らしの学校「だいだらぼっち」・NPO 法人グリーンウッド 代表理事 辻 英之さん

・全国から集まった子ども達が、1年間の山村留学をし、ひとつ屋根の下で大家族となって暮らします。毎日のご飯づくり・洗濯・掃除など暮らしのことはすべて自分たちで話し合い、自分たちで行います。薪で沸かす風呂も、田んぼや畑の季節の仕事も、みんなで協力して行います。暮らしから学ぶ・地域から学ぶをキーワードに、「ねっこ教育」を行っています。



参加者と職員

## III. 滋賀県多賀町

○絵馬通り活性化事業・多賀町長 久保 久良さん

多賀町最大の観光スポットは多賀大社です。その門前に広がる通称「絵馬通り」一帯を活性化させようとする事業です。その目標は、次の通りです。

- ・人にやさしく、門前町にふさわしい道路(参道)の形成
  - ・統一感のある美しい町並みの創出 ・安心して暮らせる生活環境づくり
  - ・癒し、憩いの空間づくり ・多賀大社と多賀大社前駅間の回遊性の向上
- などだそうです。



絵馬通り

○一般社団法人「杜の実」……理事 平居 晋 さん



「多賀を元気にしよう。」との思いで、有志により作られた街づくり会社です。人が集えば会話が生まれる。そして、情報が集まり発信されていく。「いい街づくりは人づくりから」がモットーだそうです。

・各家の軒先には、「笑う門には、福来る。」の絵馬が飾ってありました。鹿野でも、亀井さんの紋入りにするなど工夫ができないかなあと感じました。

◎多賀町中央公民館「結いの森」を見学後、帰路につきました。その車内で、全員の感想を言い合いました。人によって目の付け所や感想は違っていました。今回の旅で出会った人々の活動や生きざまに感動した言葉が多かったです。鹿野や自分が置かれている環境で、生かしたいとの思いが伝わってきました。



【日本海新聞ふるさと大賞】の授賞式  
鹿野地区上町自主防災会が、「日本海新聞ふるさと大賞」を受賞しました。その受賞式典が、3月16日(月)に行われ、永原 隆会長・足立 雅子副会長・谷口 康夫庶務幹事が参加されました。



おめでとうございます。令和2年度は、「支えあいマップの作成をしようかな。」と抱負を語っておられました。

